

講義名	オ)人権問題論			
担当教員	安本 博司			
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 3時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

<b>主題と概要</b>				
<p>【主題】生まれながらに持っている幸せに生きていくための権利について学ぶ。</p> <p>【概要】人権問題に気づき、考え、行動できるようになることを目的とする。授業では、毎回自らの考えを「コミュニケーションカード」に記入してもらい、各テーマについては、具体的に考察できるように、討論、発表、新聞記事等を引いる。授業開始時には、前回の授業の振り返りを行い、さらに議論を深めようとして、次のテーマに移行する。人権問題を他人事と捉えたり、思考停止に陥るのではなく、自分事として捉え、真実に考察する習慣を身につけることがねらいである。</p>				

<b>到達目標</b>				
<p>人権問題の変化や現状を、基礎的なデータや文献から理解できること。</p> <p>毎回の授業テーマに関して自らの考えを整理できること。</p> <p>期末レポートを通じ、人権問題について認識し、取り組みの方向を構想できること。</p>				
<b>提出課題</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週のテーマに関する課題</li> <li>期末レポート</li> </ul>				

<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b>				
毎授業時、前回の課題内容についてフィードバックを行う				

<b>評価の基準</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>課題 70%（課題提出と内容）</li> <li>期末レポート 30% . . . . . 人権問題について認識し、取り組みの方向を構想できているかどうか</li> </ul>				

<b>履修にあたっての注意・助言他</b>				
*2021年度は、対面とオンデマンドの並行で授業を行う。オンデマンド授業では、授業動画を視聴し、毎週与えられた課題に取り組み、課題の提出をくり返しながら進行する。				

<b>備考</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>対面授業において、3分の2以上、出席しなかった者、期末レポートを提出しなかった者は、単位を取れない。</li> <li>オンデマンド授業において、期日までに課題を提出しなかった者（＝欠席扱い）、期末レポートを提出しなかった者は単位を取れない。</li> <li>一時的に通学困難になった場合、対面授業からオンデマンド授業へ移動はできない。</li> </ul>				

<b>教科書</b>				

<b>プリント資料及び参考文献</b>				
<p>毎回資料はオンライン授業時に提示する。</p> <p>*ヒューマンライツ・ナウ編（2009）『人権で世界を変える30の方法』合同出版</p> <p>*辻村みよ子（2019）『人権をめぐる十五講』現代の難問に挑む』若菜書店</p>				

<b>授業計画</b>				
<p>テーマ、内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：授業の内容、進め方、評価方法、人権について</li> <li>2. 高齢者と人権：高齢者への虐待を例に考える</li> <li>3. 障がい者と人権：健常思想について考える</li> <li>4. 子どもと人権：「権利の主体」である子どもと虐待について考える</li> <li>5. ホームレスと人権：自立と支援について考える</li> <li>6. ジェンダーと人権：性別二元制と固定的性別役割分担意識について考える</li> <li>7. セクシャルマイノリティと人権：多様な性のあり方を理解し「普通」を問い直す</li> <li>8. 犯罪被害者と人権：被害に遭った方への接し方について考える</li> <li>9. 部落と人権：部落問題の今を考える</li> <li>10. アイヌ・沖縄と人権：現状、どのような問題が存在しているのか、アイデンティティをキーワードに考える</li> <li>11. 外国人と人権：在日外国人の労働問題について考える</li> <li>12. 在日コリアンと人権：在日コリアンの歴史を学び、様々な人権侵害の例をとりあげ、在日の日本社会での位置づけを理解する</li> <li>13. ハイトスビーズと人権：表現の自由とは何かについて考える</li> <li>14. 災害と人権：「災害弱者」への気付きとトラウマ・ケアについて考える</li> <li>15. 戦争と人権：平和と安全に生きる権利と人権・植民地主義・移民について考える</li> </ol>				

<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>				
	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク	
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク	
	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）			

<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b>				
事前に授業テーマに関して、文献や資料、映画、マンガ、ドラマ、動画等で情報収集に努めること。事前事後学習におおむね2～3時間程度の学習時間が必要である。				

<b>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>物事に自ら進んで取り組み、自ら目標・課題を設定し、それを解決に結びつけることができる。</li> <li>現象や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる。</li> </ul>				

<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>				

<b>実務経験の有無及び活用</b>				

<b>備考</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>対面授業において、3分の2以上、出席しなかった者、期末レポートを提出しなかった者は、単位を取れない。</li> <li>オンデマンド授業において、期日までに課題を提出しなかった者（＝欠席扱い）、期末レポートを提出しなかった者は単位を取れない。</li> <li>一時的に通学困難になった場合、対面授業からオンデマンド授業へ移動はできない。</li> </ul>				